

総務課の新型コロナウイルス対応について

谷口正憲

大阪府済生会中津病院 総務課 統括課長

総務課は病院が決定したコロナ対策をいち早く実行する必要があり、緊急の対応も多かった。まず、早々に入院患者への面会が禁止となり、院内掲示物の作成（感染状況により頻繁に差換えあり）、コロナ病棟設置に伴う通行制限の掲示等を行った。また、面会禁止により、入院患者への荷物受け渡しを病棟看護師が対応していたが、業務負担軽減を図るため、荷物受け渡し窓口を設置し、運営方法について窓口業務を担当する警備会社と調整を行った。一方、職員向けの対応として、職員食堂・休憩室での私語禁止・マスク着用等の掲示、食堂の間隔を空け利用するために座席数を半減し、減らした座席分を確保するために昼食時のみ、会議室を開放した。また、各棟入口等にアルコール消毒液設置を行い、定期的に残量をチェックし、必要に応じて補充を行った。その他、業務上の理由により自宅に帰ることのできない職員に対し、近隣ホテルと契約を結び、部屋数の確保を行うとともに、ホテルの予約窓口としての役割を担った。

令和3年7月1日には一般の方を対象にワクチン接種予約専用のコールセンターを開設した。月曜から金曜に4名体制で業務を行い、電話対応3名とデータ入力・PHSへの転送係1名で開始した。事務部各部署から人員が当番制で派遣され、対応に当たった。

受付開始と同時に予約の電話が殺到し、順調に枠が

埋まりつつある中、7月6日に大阪府からワクチン供給一時停止の連絡が入る。これを受け、院内に在庫があったワクチンを3日間で180回接種を行い、それ以降の予約に関しては個別に延期の連絡を行った。

予約されていた方は多い方で百回以上も電話され、やっとの思いで予約が取れたにも関わらず延期の連絡を受け、納得のいただけないケースも多数あった。これについては電話担当者も精神的にかなり疲弊していた。8月9日からワクチン供給が再開され、延期となっていた方を対象に連絡を行った。再予約は概ね順調であったが、既に他の医療機関で接種されている方や連絡がつかない方もおられた。接種会場については、感染管理室が動線や必要人員をシミュレーションし、医師、看護師、医療Ⅱ部、事務部の人員調整を行った。重度のアナフィラキシーショックなどは発生せず、混乱なく接種は終了となった。最終的に1回目・2回目接種合わせて2,146回の接種を行った。その後は人数制限し、健診センターに接種を引き継いだ。

今回のコロナの対応について、総務課は事務部門が行える業務の最前線にいたと考える。コロナの状況は現段階では先が読めないが、今後の動向に注視し、さまざまな局面に臨機応変に対応できるように準備したい。



ワクチン接種予約センター



接種会場

受付け：令和4年6月16日